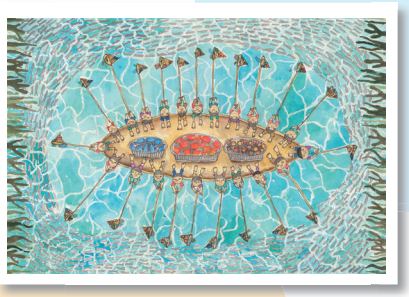
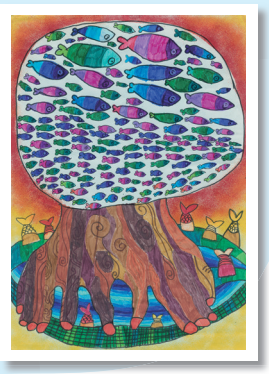
花王 国際こども環境絵画コンテスト

KAO International Environment Painting Contest for Children

第8回(2017)
入賞作品集

いっしょにeco

花王グループでは、世界の子どもたちに、身近な生活のエコと
地球の環境・未来について真剣に考え、絵画として表現してもらい、
それを多くの人たちに伝えることで、世界中の人々が暮らしの中で環境を考えて
行動するきっかけとなることを願い、2010年からこのコンテストを実施しています。
8回目となる今回は、世界41カ国・地域の子どもたちから11,048点のご応募をいただきました。
厳正な審査により選ばれた入賞作品の中から31点をご紹介します。
子どもたちのそれぞれの作品に込めたメッセージをお受け取りいただけると、幸いです。

審査員の総評

益田 文和
審査委員長
エコデザイン コンサルタント
元 東京造形大学 教授

コンクールを始めた当初、主催者側の思いを子どもたちに代弁してもらうようなことはやめようと決めていたが、作品を見るとそんな心配は必要ないことがすぐに分かった。子どもたちは大人の意図するところを飛び越えて、我々が思いもつかない鋭い視線と表現力で感じたことを素直に描く。近年の上位賞は非常にポジティブなテーマが多く、目先の環境改善対策に取り組むだけでなく、ずっと先を見て環境と調和する暮らしを考えていこうとする、時代の気づきを先取りしているかのようだ。作品に出てくるような未来が実現されることを願う。

大久保 澄子
美術家

今回も子どもたちの絵の力強さや作品に潜むメッセージ性の強さに感動した。何ごとも深く考え過ぎてしまいがちな大人と違って、ストレートに表現する感性や感覚は素晴らしい。開催を重ねた近年はとくにコンクールの意図を理解し、しっかりと自然環境保全のメッセージを伝える作品が増えてきているように思う。作品の構想を練る過程で考えてきたことが実を結びつつあるのではないか。温暖化の影響が顕著に表れている南極や、水を汲みに何キロも歩く発展途上国など目をつぶってはいけない問題はたくさんある。グローバルに視野を広げてメッセージを投げかけていくことも考えていきたい。

松下 計
東京藝術大学 教授

毎年独自の視点を持った作品や新しい感性に出会えることを嬉しく思う。私が作品に期待することは自由な発想と多様性。その点で、今年も受賞した上位数点は非常に興味深く拝見した。一方、より独自性を持った作品を応募していただけるように、私たちも偏った目線にならず、さまざまな価値観を想像しながら選考していかなければならないと感じた。時代の変遷とともにエコの意味は変わってきている。環境汚染による途上国の問題など、視野を広く持って環境保護をより深く考えるきっかけになればうれしい。

オヤマダ ヨウコ
イラストレーター

今年も作品のレベルが上がった。応募国も増えており、コンテストが良い方向に向かっているように感じている。例えば、日本に住む私が水際のカエルだとしたら、木の上のリスや砂漠のサソリ、海に住むウミガメ、北極の白クマたちがどういった暮らしをしているのかは分からない。人間も同じで、言葉が通じないなかで、互いを知るための唯一の手段が絵だ。だから私は一つでも多くの国、一人でも多くの子どもたちに、身近な動物のとなりにいる自分を描き、国境を越えて互いを理解してほしいと思っている。これが、8回目を迎えた今も変わらぬメッセージだ。

アンドレアス・シュナイダー
デザイナー

今回初めて審査員として参加させていただき、子どもたちの作品から学ぶことの多さに大変驚いた。審査する上で大切にしたのは、作品の土台となるストーリー性である。テーマが似てしまう作品もある中で、それぞれの作品に独自の視点があり、大変素晴らしい。また環境保護を多様な角度から捉え、社会やコミュニティの役割が様々な方法で描かれている。そのことは、より良い未来への共通の願いであると強く感じた。次回のコンテストでは、より具体化した主題を設けてもおもしろいかもしれない。また、今起こっている環境問題に対処するため、それぞれの地域社会の中で子どもたちは何を手本とし、どのような未来を想像しているのか、具体的な取り組みを見てみたい。

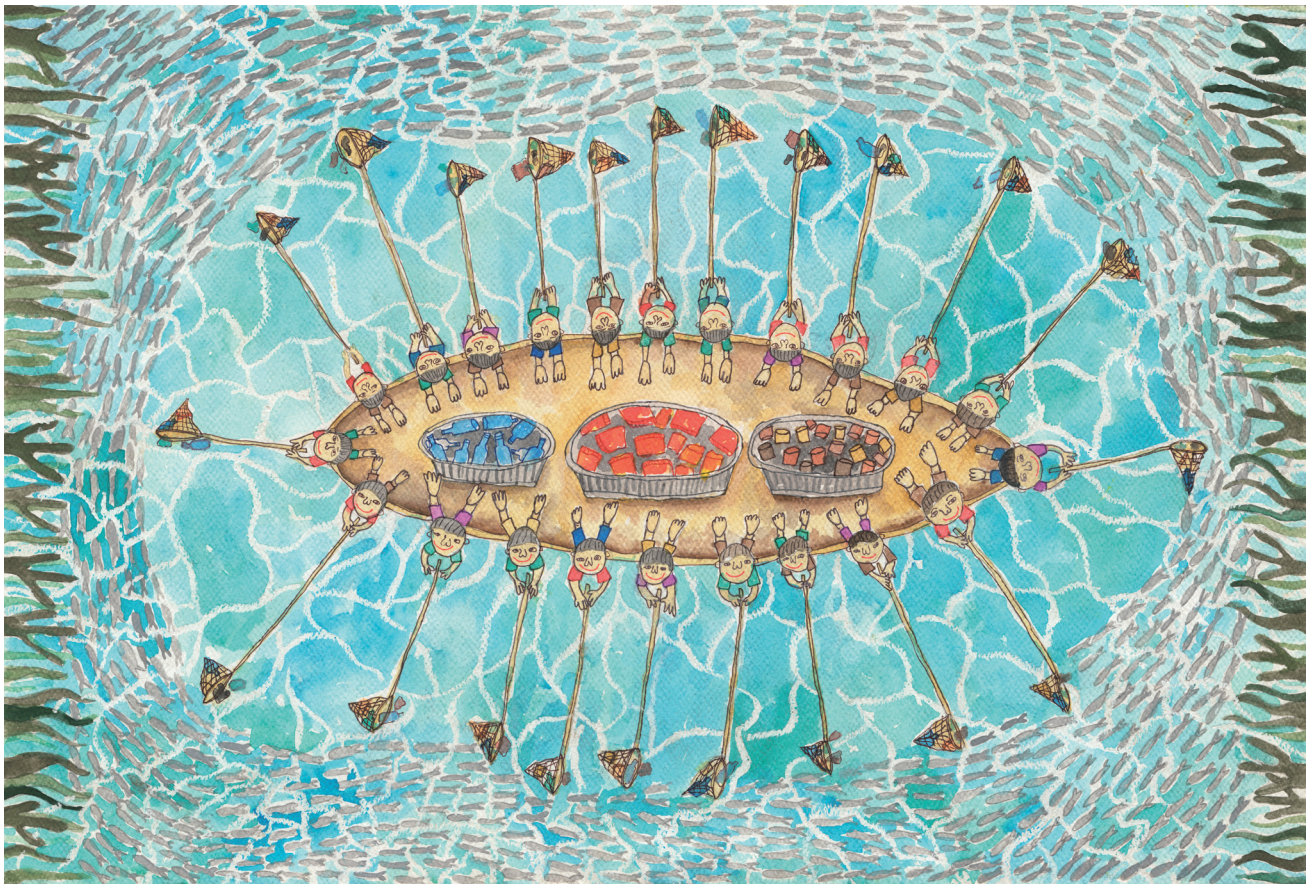
石渡 明美
花王株式会社 執行役員
コーポレートコミュニケーション部門 統括

今回は明るい未来を描いたものが多かった印象だ。大人は責任をもって、きれいな未来を子どもたちに残していく必要があると改めて感じた。大人から教えられた押し付けのエコではなく、子どもたちなりの自由な発想・ストーリーで描かれた作品は、観る人の心を引き付ける力があると思う。各国の文化的な背景も垣間見えてとても興味深い。作品展では子供たちの思いや受賞ポイントを理解しながら観ていただくと、作品の持つメッセージ性がより心に響くのではないだろうか。

片平 直人
花王株式会社 作成部門
副統括

毎年社内で行われる予備審査から参加しているが、様々な視点で議論しながらの選考となることから、最後までどの作品が選ばれるかはわからない。特に今回は多様な思いやストーリーが細部にまで込められた作品が多く、いずれも深く読みとることができるため、選考が難しかった。インターネットを通じて過去の優秀作の影響を受けやすい状況にある中でも、自分なり・自国なりの視点で環境を考えた、独創性のある作品を選出できたと思う。同時に、審査する側の、何をもって選ぶかという責任を改めて感じた。

“いっしょにeco”地球大賞



「きれいな澄んだ水のために一つになろう！」

Suriya Patoomwan さん　（8歳／タイ）

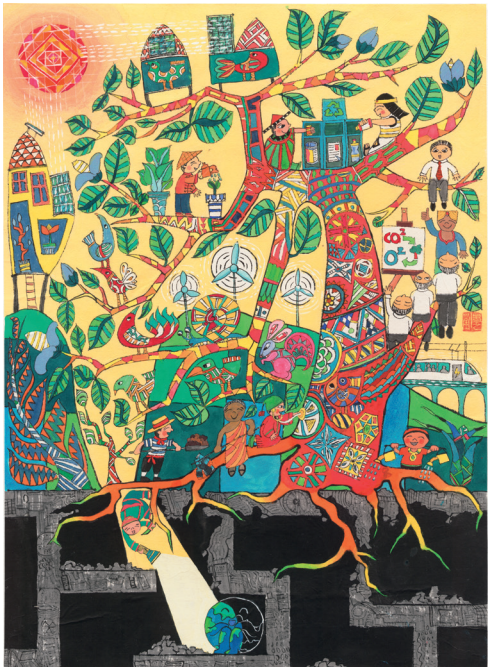
絵に込めた思い

私たちの村には池が１つあります。村の人たちはその池に生ごみを捨てています。がらくたを投げ入れる人もいます。そういう姿を見るたびに、私は悲しくなります。私は、ごみを池に投げ入れてほしくありません。村では、料理やお風呂、植物への水やりなどにその池の水を使わなくてはなりません。そういう気持ちを込めて、子どもが小舟に乗って生ごみを集める絵を描きました。水をきれいに保つためには、みんなの協力が必要だということを伝えるためです。水がきれいだと海藻の量が増え、魚やカニなどが水中で幸せに暮らすことができます。どこにいても飲料水が飲めます。くつろげる場所になります。私たちの体を健康に保つことができます。

審査員講評

水上のごみを拾うと蒼く美しい水面が現れ、魚が集まってくるという非常にユニークな構成だ。「きれいな水を今ならまだ取り戻せるよ」というメッセージが伝わってくる。清掃という具体的行為が作品にインパクトを持たせている。一つの船で行なう共同作業はコミュニティを表わしているかのようで、皆で協力し合って取り組むというタイ人の国民性が良く表現されている。水色の濃淡が美しい色使いも印象深く、動画を見ているようだ。

“いっしょにeco”花王賞



「母なる地球を解放しよう」

Kin Gi Lau さん
（11歳／香港）

絵に込めた思い

「環境にやさしい（エコ・フレンドリー）」という言葉は、大切な地球環境を守るために何かをするということを示す言葉です。そこで、このメッセージを絵で伝えようと思いました。大きな木の枝には、地球環境を守るために何かを行なっている人たちの姿を描いています。でも、この絵のポイントは下の部分になります。木の根が描かれている部分です。この木の根が表しているのは、私たちの住む地球を困らせる迷路のように入り組んだ公害を解消するための人々の取り組みです。

審査員講評

木や花、文字などのモチーフを使い、難しく考えがちな環境問題を楽しい物語風に描いているのが印象的。自分の目に映るシーンを散文的に集め、しっかりした構図で巧みにコラージュしている。人間を上手に取り入れており、未来を感じさせる作品。地球をテーマにしながらもその姿を地下に描くところが、地球全体に目を向けずに目先の環境保全に取り組むわれわれの環境に対する姿勢を指摘しているようで、ハッとさせられる。

「美しい自然の中にある幸せ」

Ganniga Sook-Sai さん
（14歳／タイ）

絵に込めた思い

環境や自然は私たちの住む世界や人間にとって有益です。その環境や自然とうまく付き合っていくためには、この世界の豊かさを永遠に維持する責任が私たちにはあります。みんなで幸せに暮らし、天然資源を活用し、エネルギーとしての天然資源の価値を理解することが、この世界が作り出すパワーとなります。

審査員講評

明るい兆しを思わせるスポットライトを当てたような中庭で、少女たちが祈りを捧げている。さまざまな植物が実る木の上半分のオレンジ色は明るい未来や希望を、下半分の青色は水＝命の源を現わしているのだろうか。豊穣の世界を囲むように並ぶ植栽をしている人たちの、主張しすぎない描き方が絶妙である。はっきりとした色彩で描写された中心と、繊細なタッチで描かれた周辺とのコントラストも素晴らしい。

「花たち」

Polina Zababurina さん
（6歳／ロシア）

絵に込めた思い

花はきれいです。花は生きています。呼吸をしています。虫たちの食料の泉です。こういう考えが、絵のインスピレーションになりました。花は虫に食料となる蜜を与え、虫は花粉を運びます。花と虫は生きるためにお互いに相手を利用しています。同じように、自然や都市や人間はお互いに依存しています。きれいな空気を保ち、都市を住みやすい場所にするためには自然が必要です。自然には、その豊かさを守るための土地や人が必要です。人も自然から食べ物や生地をもらいます。だから、私たちはお互いに依存しながら自然と穏やかに共存する必要があるのです。

審査員講評

芝生から咲いた花の上に家や風車が載っていたり、昆虫がいたり。独特な発想と子どもらしい世界観がうまく合わさって表現されている。物事を俯瞰（ふかん）して見る子どもたちが多い中で、人工的なものと植物を同じレベルで描くという自分の目線を大切にすることで、未来を想起させる強い力が生まれた。空を背景にするのではなく、茶色を塗ったところがユニーク。難しい画材に挑戦して背景を描いたことで、絵に深みが増している。

「おばあちゃんのすてきな部屋」

Zahra Gharibi さん
（14歳／イラン）

絵に込めた思い

私は自然が大好きです。自然のすばらしさを見ているとうれしくなります。自然は私に平和と安らぎをくれるからです。この絵を描いて、自分の考えを説明したいと思いました。『自然と調和するには、自然を家に招待して仲良くなり、家中の窓やドアを開けて、世界全体が自然と自然の美しさに敬意を払わないとだめなんだよ』と、私のおばあちゃんは教えてくれました。おばあちゃんの部屋には自然の美しさが詰まっています。おばあちゃんは夢を込めて編み、それを人にプレゼントしています。私の願いは、むかしの人々の信仰を今の子どもたちの生活に結び付けることです。そうすれば、今の世代も、常に心の中に自然と友だちになるという平和な気持ちを持つことができます。

審査員講評

シンプルなストーリーの中で、室内と室外の対比が上手に描かれている。外は薄暗く、建物の煙突から煙が出ていて寂しさを感じさせるが、室内は鳥や太陽が描かれたカーテンや絵画、緑のパターンの壁紙、動物柄の編み物に囲まれ、明るくぬくもりに満ちている。暮らしにもっと自然を取り入れようと呼びかける一方、窓の外の世界が現実の世界とならないように警告しているかのよう。やさしさにあふれながらもメッセージ性の強い作品だ。

「緑の中に住む」

藤田（ふじた） 汐海（しおみ）さん
（15歳／日本）

絵に込めた思い

私達はいつも自分達の世界と自然を分けて考えています。そうして自分達の生活を優先するあまり、知らないうちに自然を破壊しているのではないでしょうか。しかし、緑は人間にとってなくてはならないものです。私たちは緑と共存する方法を考えていく必要があります。

審査員講評

建ち並ぶビルの屋上で女の子が緑化未来図を広げているという発想がおもしろく、何人もの同志を画面の中に点在させた構成力も素晴らしい。エコのメッセージを伝えているのだろう。ビルを黄色とグレーのみで描くなど色彩の使い方も上手。工場の煙に水をかけて森を守りながら屋上に植栽して緑を増やしていくというプロセス。一つひとつを確実に成し遂げていこうとする使命感や責任感、環境保全の美しい思いが浮かんでくる不思議な作品だ。

「美しい自然を守るきれいな手」

Evgeni Bogdanov Dimitrov さん
（9歳／ブルガリア）

絵に込めた思い

この絵では、生命を表すものとして木を描きました。2本の手を木の幹にみたてて描き、その指を木の根として表現しました。その手は網を使って、汚れた海で苦しんでいる魚を救おうとしています。海から救出された魚は、きれいな水にあふれた樹冠へと運ばれます。海の水がきれいになって海に戻れるようになるまで、魚は安全な場所にとどまります。木が魚の命を守っているように、一人ひとりが自然を守る必要があります。魚と同じような状況に私たちもいつかなる可能性があるからです。

審査員講評

ブルガリアからの応募は物語の挿絵のような絵が多いが、今年はメッセージ性のある作品が届いた。テーブルに置かれたこの作品を最初は日本人の感覚で魚を左向きにして見てしまったが、右向きに泳いでいる。天地を返すと葉や樹木は水の中を泳ぐ魚と天を仰ぐ手のように見え、青のグラデーション部分は水から空になるなど、だまし絵のよう。見れば見るほど不思議な絵だ。魚を紫に、魚に見立てた葉の背景をグレーにする色使いも素晴らしい。

「世界を変えよう！」

Alexandra Teodorescu さん
（12歳／ルーマニア）

絵に込めた思い

人々の中には世界を変えたいと強く思っている人がいるということを伝える絵です。少女とその妹がよりよい世界を願っているのに、その願いがかなっていないことを絵で表そうと思いました。少女はエコ・ボランティアになることで世界を変えようとしたのですが、うまくいきませんでした。これは、「人間は変わらなければならない」ということを伝える警告です。

審査員講評

中心に描かれた樹木は地図か地球そのものだろうか。人や動物、自然との共存を細密に描いた世界から環境保全への強い思いが伝わってくる。木を取り囲むように並べられた畑では種まきや植栽が行なわれている。それぞれの畑の上に広がる夢や未来図は緑や人々の笑顔にあふれ、空や宇宙の色彩が美しい。ミクロとマクロが一体になった不思議な世界感を楽しませてくれる。発想力と想像力が光る作品だ。

絵に込めた思い

この絵は、石油汚染や、無責任な人々が海に投げ入れた生ごみのせいで死んだクジラの悲しい話を描いたものです。クジラはそのごみを食べ、海面が石油で汚染されたために息ができなくなりました。海を巨大なごみ箱のように扱い、生ごみを捨て続けた結果をこの絵は表しています。一人ひとりがそれぞれの役割を果たして、汚染されていない、きれいな海を保つ必要があります。石油会社は石油を流出させてはいけません。生ごみはごみ箱に捨てて、きちんと処分してください。

審査員講評

クジラの胃の中から人間が投棄したプラスチックの袋や破片が大量に見つかったという衝撃のニュースが今年北欧から伝えられたが、この作品はそのクジラを描いたのだろうか。一見すると模様のように見える腹の部分にはさまざまな廃棄物が線画で描かれている。蛍光の紫、黒、深い青という色使いとシンプルな構図、環境汚染の深刻さを伝える強いメッセージ性が合わさって非常にインパクトのある作品となっている。

「海の中で」

Nurinsyirah Imnani Mohd Harith さん
（15歳／マレーシア）

優秀賞

「大好きな自然」

Yuan Tung Wei さん （6歳／台湾）

作品講評　まっすぐに伸びる木々は大きな花を咲かせ、その上を軽やかに鳥が飛び交う。躍動感のある画面構成と散りばめられた豊かな色彩から、未来に向けての夢を持っているという確かな思いが伝わってくる。

「全世界が同じ気持ち、同じ考え」

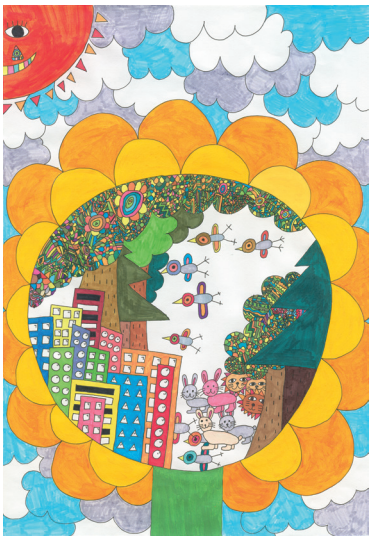
Iris Yon-En Tsai さん （9歳／台湾）

作品講評　環境に配慮した取り組みから悪影響を及ぼす問題まで、さまざまなシーンがカタログのように見事に描かれている。教育的要素に楽しいゲーム感覚を取り込んだような表現がインパクトを高め、目を引く作品に仕上げている。

「鮮やかな色の蝶々が住む森」

Jia Yu Goh さん （14歳／マレーシア）

作品講評　青と明るい黄色の美しいコントラストが印象的。明暗がはっきりと分かれていて、蝶が光のほうへ向かって飛んでいく描写が明るい未来を示唆している。生き生きとした木々の造形も素晴らしい。



「いっしょに環境を分かち合って、幸せいっぱいの地球に」

Max Masato Middlemiss さん（8歳／ニュージーランド）

作品講評　自然や動物と共存する明るい世界が今にも雲におおわれそうで、太陽が泣いている。この深い構成力に驚かされる。ヒマワリの中の細かい描写と外のおおらかな描き方のバランスが良い作品。

「未来のために地球を守ろう」

Alexia Stefania Stanciu さん（10歳／ルーマニア）

作品講評　少女のもとに集まった動物たちはおだやかにくつろぎ、幻想的な空を蝶や鳥が軽やかに舞う。あえて具体的なメッセージを持たせず、鑑賞者にストーリーの続きを問うているような鋭さが感じられる作品。

「みんなにとって環境は大切」

Asal Mirzaei さん （7歳／イラン）

作品講評　輪郭線が際立つ構成でありながら全体が調和しており、世界が一つになることを目指していることがきちんと伝わってくる。ポジティブに未来や物事をとらえるという素直な感性にあふれた作品。

「自然を満喫」

Antonio Paladino さん （6歳／アルゼンチン）

作品講評　背景のオレンジに補色の緑を合わせた温かみのある色彩の森の中を鳥が舞い、きれいな彩りの車が乗り入れている。家族での思い出を描いたのだろうか。子どもならではの素直な表現が目を引く作品。

「使うエネルギーも、出す二酸化炭素も減らして地球を大切に」

Bo Han Wang さん （6歳／台湾）

作品講評　楽しそうに自転車をこぐ女の子たちの明るい表情やカラフルな色づかいが、見る者をワクワクさせる。環境に良い乗り物で遊ぶ子どもたちを天から見下ろす太陽の表情が印象的だ。

「私たちの手によってよみがえる自然」

Viola Arielle Suliandy さん （13歳／インドネシア）

作品講評　ドアの中から出てきた植物が、木に水をやったりごみを拾ったりしている。自然の思いやりに満ちた行動を植物が自ら行なうというファンタジーの世界を、独創的な手法で描いている。

「再利用」

I Wayan Amerta Nur Pradnyana さん（15歳／インドネシア）

作品講評　ごみの象徴ともいえる空き缶の中から、木が力強く伸びている。相反する二つのものも、私たちの行動次第でうまく共存していけるというメッセージを、高い表現力で訴えていて説得力がある。

「泣いている海」

Yuan-Ling Lin さん （7歳／台湾）

作品講評　海一面に浮いたごみという重くなりがちなテーマを、青空や白い砂浜、あえてカラフルなごみを効果的に描くことで印象的に表現。人間やビーチパラソルを取り入れることで動きのある作品に仕上がっている。

「みんなでいっしょに海を守ろうよ」

Yu-Ning Shih さん （8歳／台湾）

作品講評　環境汚染が深刻化するいま、海の暮らしにも希望と大変さの両面があるということを濃淡のある色彩で豊かに表現している。ごみが入った網の周りで笑いを浮かべた魚が、まずはごみをなくそうよと訴えているようだ。

「環境を守る思い」

Venuka Lochana Wijebandara さん （13歳／スリランカ）

作品講評

15～19世紀ごろの文化様式を研究し、手の形や模様など独特の表現形式を再現しようと試みている。その子どもながらに真摯な姿勢から、環境に対して意識の高かった当時の精神性を取り戻したいという気持ちが読みとれる。

「自然保護を楽しむ」

Orra Ketan Patel さん （13歳／インド）

作品講評

豊かな緑と澄んだ海が広がる美しい地球を囲む人間たち。皆で水を循環させて環境問題を解決しようという、ポジティブな発想と夢に満ちた作品だ。あふれる笑顔からエコに対する積極的な姿勢が伝わってくる。

「みんなでいっしょにエコ」

Pyae Suu Myat Khin さん （13歳／ミャンマー）

作品講評

森を再生しようと植樹に取り組む人々の目が一つしかない。一つ目で世界の片側しか見ていないから森が消えて行く。植樹によって再生される森の未来が想像できれば二つの目が揃うと訴えているのだろう。

「幸せにあふれた世界」

Maria Nectaria Constantin さん （14歳／ルーマニア）

作品講評

平和の象徴である鳩を囲んで寝転んでいる女の子たちの幸せそうな表情から、環境がきれいになるとこんなに幸せになるよ、という未来へのメッセージが感じられる。

「環境との調和を失った私たち」

Md Towsif Rounak さん （6歳／バングラデシュ）

作品講評

見る者に疑問を投げかけるような表情豊かな鳥と魚の多様なストーリーが潜んでいるようだ。水の中と外の生き物の関係性はどうなっているのだろうか。6歳の子の作品とは思えないほど強い発信力を感じる。

「地球にシャワーを」

Lucas Letian Ding さん （6歳／アメリカ）

作品講評

画面に一部しかおさまらないほど大きな太陽に照らされた、環境に良いモチーフや環境を象徴する自然や動物たち。笑っているはずの地球の顔にあるのは涙だろうか。見れば見るほど味わい深い。

「ハチさん」

Aleksandra Tomaszek さん　（6 歳／ポーランド）

作品講評　緻密な作品が多い中、おおらかな世界観でひときわ個性を放っている。大人びたグレイッシュな色彩と、満面の笑みで仲間と遊ぶ丸々としたハチの対比が素晴らしく、シンプルな構成ながら味わい深さがある。

「いっしょに取り組もう！」

Isabel Bo Wang さん　（12歳／台湾）

作品講評　のどかな風景が広がる地域で、ごみ拾いや植栽といったエコ活動が行なわれている。手前と奥を色で分けて主役であろう人を墨色で描くなど色使いや構成力に優れ、じわりと良さが伝わってくる作品だ。

「雨の水のしぜん水」

豊野（とよの） 真弓（まゆみ）さん　（6 歳／日本）

作品講評　輪郭の中を丁寧に塗る作品が多いなかで、勢いのある描き方が光る作品。水の循環をテーマに描いているが、エモーショナルな感じ、動きや思いの丈があって、豊かな自然水を楽しみたいという純粋な願いが表れている。

「さとやまのあき」

坂本（さかもと） 壮（そう）さん　（7 歳／日本）

作品講評　落ち葉の中で遊ぶという四季のある国ならではの一コマを情感豊かに描き、こういうことをできる自然を大切にしようといっている。笑いながら、ではなく真剣に遊んでいる表情が素晴らしい。

第8回 コンテスト 表彰式

2017年12月7日（木）～9日（土）に開催された「エコプロ2017」（東京ビッグサイト）の花王ブースにおいて受賞作品を展示し、最終日の12月9日には受賞者代表を会場に招いて表彰式を行ないました。

当日は41カ国・地域、11,048点（国内861点、海外10,187点）の中から、「“いっしょに eco” 地球大賞」「“いっしょに eco” 花王賞」に選ばれた9名が参加しました。審査委員長の益田文和先生からは「今年はこれまで以上に希望にあふれた作品が多く、審査はとても楽しかった。子どもたちが思い描く夢の世界は私たち大人を勇気づけてくれます」との講評をいただきました。専務の竹内から受賞者に表彰盾と副賞が授与された後、「“いっしょに eco” 地球大賞」を受賞した Suriya Patoomwan さんによるスピーチが行なわれました。Patoomwan さんは自身の作品を通じて、「僕は、動物が多く自然が豊かな僕の町が大好きです。でも池にごみを捨てる人がいるため、地球は悲しんでします。皆で協力し合ってきれいな環境を維持していきたいです」と語ってくれました。

表彰式後のインタビューセッションでは、それぞれの受賞者から自分が暮らす国・地域の環境を踏まえて、絵に込めた思いなどが語られました。

受賞者の皆さんのインタビューセッション

受賞者を代表しスピーチを行なう大賞受賞の Suriya Patoomwan さん

花王賞受賞の Alexandra Teodorescu さんに表彰盾を授与

受賞者の皆さん、審査委員長の益田先生（左）、専務の竹内（右）と記念撮影

第9回コンテスト 作品募集のご案内

詳しくは WEB サイト「花王国際こども環境絵画コンテスト」をご覧ください。
http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/painting-contest.html

花王　絵画コンテスト　検索

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C020495
VEGETABLE OIL INK

自然と調和する
こころ豊かな毎日をめざして

kao